

(様式6)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成19年9月19日

【評価実施概要】

事業所番号	2870501224		
法人名	社会福祉法人光朔会		
事業所名	グループホームオリンピア兵庫		
所在地	兵庫県神戸市兵庫区小松通5-1-14 (電話)(078)671-7065		
評価機関名	株式会社H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6番8-102号		
訪問調査日	平成19年8月1日	評価確定日	平成19年10月26日

【情報提供票より】 (19年7月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年8月1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	19人	常勤14人, 非常勤5人, 常勤換算	16人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り	
	3階建ての	3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	86,000円	その他の経費(月額)	31,500円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(450,000円) 無	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,365円	

(4) 利用者の概要 (7月1日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	12名
要介護1	5	要介護2	5		
要介護3	4	要介護4	2		
要介護5	1	要支援2	1		
年齢	平均 86.2歳	最低	79歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	川崎病院・橋本歯科医院
---------	-------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設当初より地域との関係に着目し、高齢者総合福祉施設のひとつとして開設されたホームである。地域交流に力を注ぎ、定期の運営推進会議に加え、昨年までは週2日開いていた喫茶店を毎日オープンするようしたり、地域住民を招待しSalon de l'Olympiaを開催するなど交流機会を増やすなど、ますますの地域交流を深めている。管理者は基より職員一人ひとりが意見を出し合い、生活の主人公である利用者にとって更に良いケアをするために理念の実践が出来ている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	<p>昨年の外部評価結果を基にホームの改善策の検討を行っている。喫茶を毎日開店するよう改善したり、Salon de l'Olympiaを開催したり地域にも更に積極的に出て行くようにするなど取り組んでいる。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)</p> <p>今年度の外部評価を受けるにあたっては、評価の狙いを把握し、各ユニットで自己評価を行い、まとめている。運営推進会議でも内容を配布し説明する機会をもち、意見を聞いて還元している。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6)</p> <p>運営推進会議には、2ヶ月に1回、利用者や家族、民生委員、介護支援センター、施設関係者、喫茶店店長などが参加し開催している。ホームでの取り組みや、外部評価の結果報告、地域行事の内容や地域交流など内容は豊富であり、積極的に意見交換がなされ、ホームの運営に反映している。市の担当者を訪問してサービスの情報交換や論議の場を持ち、質の向上や課題解決に取り組んでいる。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)</p> <p>面会時には職員から声をかけ利用者の日々の暮らしの様子を伝え、意見を聞くようにしている。ホーム便りの配布やビデオ、アルバム作成など日常の様子や伝わりやすい工夫がされている。状態の変化のあるときは電話で報告し、家族と相談の上、治療方針を決めている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)</p> <p>地域の老人会活動のグランドゴルフ・地域の夏祭り等の行事に積極的に参加している。また、ホームが喫茶店や、2ヶ月に1回Salon de l'Olympiaを開催して地域の方を招待するなど、地域と交流する取り組みが盛んに行なわれている。地域の商店に協力を依頼し、協力体制がある。</p>

2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初より「生活の主人公は利用者ご本人」「高齢になってもこれまで通りに誇りを持った暮らしを地域の中で安心して続けるお手伝いをさせていただくこと」という地域密着を視野に入れた理念を掲げ利用者個々の暮らしを支援している。年1回ユニットごとに良い点・悪い点を各50点挙げて改善方法を分類し、年間目標・月間目標を立案することで職員間で方針にずれが生じないような工夫がされている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を共有するために管理者と職員は毎朝の朝礼で理念を唱和している。また、理念を基に「敬語を使う」「うそはつかない」「今ある能力は発揮する」という具体的な約束を設け、日々の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の老人会活動のグランドゴルフ・地域の夏祭り等の行事に積極的に参加している。また、ホームの1階に地域住民が利用出来る喫茶店や、2ヶ月に1回Salon de l'Olympia（コーラスや落語など）を開催して地域の方を招待するなど、地域と交流する取り組みが盛んに行われている。地域の商店に協力を依頼しポスターやチラシをおいてもらうなど、日常の買い物以外でも協力体制がある。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>昨年の外部評価とホームの改善策の検討の結果を踏まえ、喫茶を毎日開店するよう改善し、Salon de l'Olympiaを開催したり地域にも積極的に出て行くようにするなど取り組んでいる。今年度の外部評価を受けるにあたっては、評価の狙いを把握し、各ユニットで自己評価を行い、まとめている。運営推進会議でも内容を配布し説明する機会をもち、意見を聞いて還元している。</p>		
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議には、2ヶ月に1回、利用者や家族、民生委員、介護支援センター、施設関係者、喫茶店店長などが参加し、開催されている。ホームでの取り組みや、外部評価の結果報告、地域行事参加や地域交流など内容は豊富であり、積極的に意見交換がなされ、ホームの運営に反映している。</p>		
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市の担当者を訪問してサービスの情報交換や論議の場を持ち、質の向上や課題解決に取り組んでいる。館長や法人代表者が市の研修の講師に行ったり、市の職員の実習を受け入れるなど考え方を理解してもらおう努力をしている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>面会時には職員から声をかけ利用者の日々の暮らしの様子を伝えたり、意見を聞くようにしている。また、利用者一人ひとりの個別のアルバムの作成、毎月「オリンピア通信」として写真を多く用い作成、外出時のビデオを利用者や家族と一緒に見るなど日常の様子が伝わりやすい工夫がされている。状態の変化のあるときは電話で報告し、家族と相談の上、治療方針を決めている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日常の訪問以外にも、年1回の家族会や臨時の食事会としての家族会、行事などで家族が参加できる機会も多く、年3～5回は家族同士が会話をする機会を設けている。運営推進会議でも意見が言いやすい雰囲気となるよう努力し、出された意見や苦情を職員で共有・実践に活かしている。弁護士を入れての第三者委員会も設置されており、安心して相談ができるよう配慮されている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>各ユニットに職員は固定しているが、ユニット間での交流を盛んにし日常的に情報交換できるようにすることで、なじみの関係を作るなど異動や離職のダメージを最小限に抑える配慮を行っている。必要に応じて、職員の異動・離職を家族に説明している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じた育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>新入職員研修・新入職員OJT・認知症ケア研修・非常災害対応研修・若手リーダー育成研修・中堅職員研修などの内部研修が充実され、職員の経験や能力にあわせ研修が出来る。入職時にはチームワーク作りの目的で合宿も行なわれ、コミュニケーション能力の充実も図られている。希望により外部研修にも参加を支援している。年間研修計画も立てられており働きながら、楽しみながら研修が出来るよう配慮されている。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他の施設との交流機会を設けている。訪問や実習の受け入れ、他施設への見学がサービスの質向上や職員の自己研鑽の刺激になっている。館長が認知症介護サービス事業者対象の研修の講師を務めており、他業者との情報交換の場にもなっている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p> <p>1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居に際しては事前に訪問、面談し馴染みの関係を作るようにしている。現在の入居希望者はデイサービスやショートステイを利用している方が多い為、デイサービス職員とグループホーム職員が交流を図り、デイサービス・ショートステイ利用時に見学を取り入れるなど馴染みの関係が築けるよう努力している。また、家族は基より利用者自身に出来るだけ分かり易く説明し、納得した上で入所になるよう配慮している。</p>		
<p>2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>					
13	27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は、利用者と日々の喜びや悲しみを共有できる関係を目指し、一人ひとりの話や動きを通して一方的な関係にならないよう配慮されている。日常生活の中で利用者から生活の知恵を学び、喜びや悲しみを共にし、支ええられる関係を築いている。</p>		
<p>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1.一人ひとりの把握</p>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入所時に、センター方式のアセスメントシートを利用し、家族や利用者から思いを聞き把握するようにしている。意思疎通が難しい利用者は、家族や親戚・友人や知人などの協力を得て情報を把握し、利用者の思いを理解、検討するよう努力している。毎週カンファレンスを行い、職員間で情報交換し利用者の意向や情報把握をする取り組みがある。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画立案するまでに本人・家族の意向や要望を聞き、医師のアドバイスなどを考慮し計画を立案している。プラン作成後は本人・家族に説明し、変更の依頼がある場合は再度検討し変更している。申し送りノートを利用し利用者に対して気づいたことや変化を、職員間で共有しプランニングに役立てている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月に1回の見直しを基本とし、状態変化があるときは適宜行なっている。申し送りノートに様子の変化を記入しており、週に1回は利用者の状態について話し合いが行われている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々 ^の 要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入所前のグループホームでの泊まりは無いが併設のデイサービスやショートステイを紹介し利用してもらっている。利用者の希望にあわせ外出や旅行支援を行なっている。入院中の利用者に対して面会に行ったり、24時間の医療連携加算を取っており利用者や家族の希望により入院回避できるよう医療体制が整っている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>利用者や家族の希望に応じて、以前のかかりつけ医や提携病院を受診できるようにしている。週1回は医師会からの往診があり、日常生活の様子など情報提供することで利用者個々のかかりつけ医との関係作りもされている。家族の希望により、受診介助を行うこともあり、受診時の様子は家族に報告し、適切な医療が受けられるよう支援している。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>最後までその方らしく生活できるようにとの方針を職員間で共有し、入居時に「重度化した場合における対応に係る指針」として利用者や家族に書類で説明し同意を得ている。家族や本人・医師・職員を交えて治療方針を話し合う機会も持ち、希望に添って安心して治療が受けられるよう配慮している。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>ホームとしては、「利用者一人ひとりが尊厳ある生活を送るお手伝いをする事」を理念に掲げ、個人情報の取り扱いについては同意書も作成し、細心の注意を払っている。プライバシー保護や個人情報の保護の徹底については研修を行ない、繰り返し話し合っている。入浴や排泄時などはパターンを把握しさりげなく誘導・介助するよう配慮している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの1日のスケジュールは決めず、その日の利用者一人ひとりの要望を聞きながら生活を組み立て、外出支援もするようにしている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材搬入されたものを調理するだけでなく、メニューを一緒に考え利用者と共に買い物に行き調理までするなど利用者の力の発揮の場面を増やすだけでなく、楽しみを増やす工夫もされている。利用者の能力にあわせ、下ごしらえや味付け、盛り付け、配膳など利用者と職員が協力して行なっている。利用者の好き嫌いや好み・日々の状態を把握し、さりげなく声かけし食事量の配慮も出来ている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	個人浴を基本としており、入浴時間は決めず、利用者の希望にあわせ対応している。夜間入浴も交代勤務を利用し、安全に入浴できる配慮をしながら対応している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを 期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴を活かし、入居以前より続けているゲートボールを続けたり、併設のデイサービスに参加したり楽しみごとが継続できるようにしている。語学が得意な利用者にはホーム内の案内や外国からのお客さんの接待などの役割を持ってもらったり、日常生活の中での買い物や手芸・歌など一人ひとりにあった支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	公園や近くのホームセンターへの買い物・喫茶店・中庭でのくつろぎタイムなど一人ひとりの希望の内容や時間に合わせ外出できるよう支援している。天候が悪い日などでもベランダや併設の喫茶店など場所を選び、ホーム内に閉じこもらないよう工夫がされている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることによって生じる弊害を職員は理解しており、身体拘束は行っていない。ベランダは常に開放し、玄関の施錠も原則行わないようにしている。利用者の安全を確保する為に利用者が行方不明になったときの対応なども研修を行ない、職員全員が対応できるようにしている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人内で災害時対策や昼間や夜間帯の想定で避難訓練も行っている。研修を繰り返し職員が利用者の安全を配慮して避難できるよう意識を高めている。地域住民には日頃より関係を密にしており、協力体制がある。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランス・カロリー計算は行っていないがおおよその摂取量や栄養バランスは把握している。水分摂取の重要性を職員は十分理解しており、特に注意が必要な利用者はチェック表を利用し把握している。また、水分補給がいつでも出来るよう準備している。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや廊下などの共有空間には行事の写真・職員紹介のため写真の掲示が見られる。随所におかれた花が季節感を感じさせ、他のユニット間との壁も開放し、閉鎖感をなくし、自然の風や光を取り込み、心地よい空間となっている。ドアを変えることで、トイレや浴室をわかりやすくしている。少人数で座れるソファを置き、他の利用者の気配を感じながら思い思いの時間を過せるよう配慮している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>神棚や使い慣れた家具・植木鉢・冷蔵庫など利用者のなじみのものを持ち込まれ、また思い出のラケットや現在使用しているグランドゴルフのスティックなど、個性豊かな部屋作りができています。家族の協力で「自分の部屋」らしく模様替えを行いその人らしく安心して生活できるよう工夫されている。</p>		

は、重点項目。